

インターネットで情報発信

—気象予測データを利用した農作物被害軽減情報サービス

《平成15年大冷害のあとで》

やませ気象変動研究チームでは、冷害被害の軽減を目的としたウェブによる情報発信システム「気象予測データを利用した農作物被害軽減情報サービス」を構築しました。これは、平成15年の大冷害を受けて開始された「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業『やませ等気象変動による主要作物の生育予測・気象被害軽減技術の高度化と冷涼気候利用技術の開発』」のもと、青森・岩手・宮城・福島各県農業研究機関・日本気象協会およびJA新岩手との共同研究で開発されたものです。

《システムの構成》

ウェブシステムのURLは、<http://tohoku.dc.affrc.go.jp/yamase.html>です。本システムは東北農研に設置されているデータベースサーバとウェブサーバとで構成されています。各種配信情報の基礎となる気象データは、農林水産研究計算センター（つくば市）の計算サーバによって1 kmメッシュ単位で計算され、東北農研のデータベースサーバへと転送されます。データベースサーバでは、受信した気象データを警戒情報に加工し、また作物生育モデルを稼働させて、水稻の危険期予測などの情報として発信します。ユーザーは、ウェブサーバから各種情報を閲覧できますが、GISソフトウェアにより、選択範囲を拡大することや任意の1 kmメッシュ単位での時間変化グラフも見ることができます。

《提供している情報》

主な提供情報は、1 km メッシュ展開された気象予測デー

やませ気象変動研究チーム

菅野洋光

KANNO, Hironitsu



タ、気象予測データを用いた水稻の深水管理警戒、水稻の危険期・出穂期予測情報です。例えば、図1に示す深水管理警戒マップでは、予測気温17℃以下で深水管理の励行が必要な地域がオレンジ～赤色で示されますが、この深水管理警戒は気温予測データに基づいて作成されるため、やがて来る低温に備えて早めの対策をとることが可能となります。また、エリアを拡大すると地名が表示されるため、任意の地域における1 kmメッシュ情報を取得することが可能です。さらに、水稻の危険期・出穂期予測情報マップ（図2）をあわせてみることで、水稻の危険期に有効に深水管理を施すことが可能になります。

なお、気象予測データは、不特定多数への公開ができないことから、利用にあたってはユーザーIDおよびパスワードが必要です。ユーザーIDおよびパスワードは、ウェブ画面上から送信するメールにより申請を受け付けてから交付しています。利用は全て無料ですので、お気軽にお申し込み下さい。

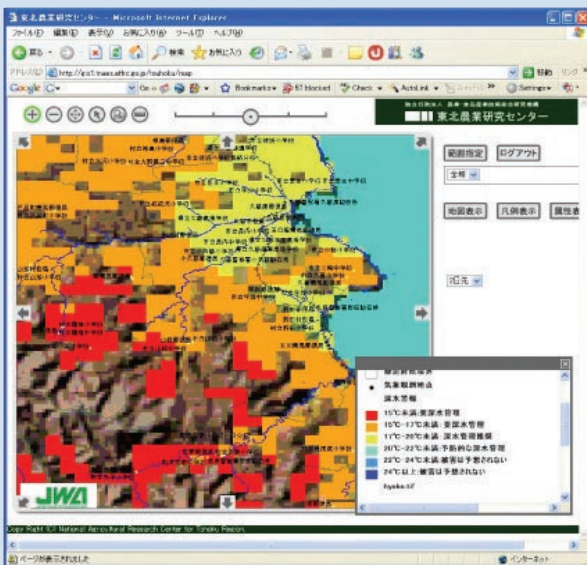


図1：深水管理警戒画面

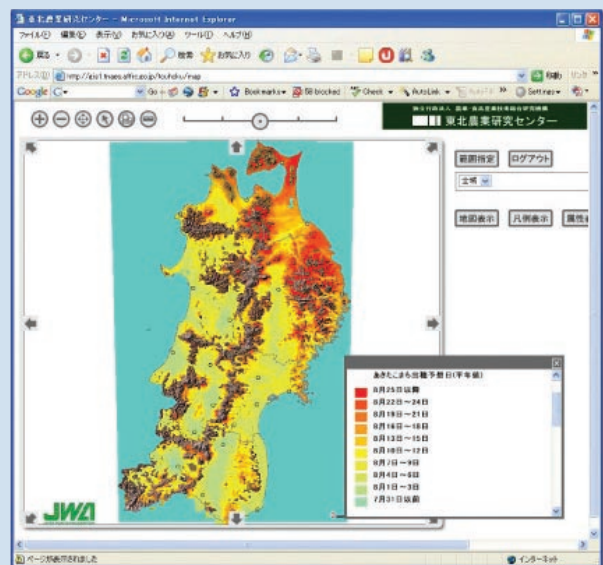


図2：出穂期予測画面